

しらかば

2013年秋号 第22号

北海道中国帰国者支援・交流センター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでる

2・7

電話 011-252-3411 FAX011-252-3412

URL: <http://www.hokkaido-sien-center.jp>

厚別区は札幌市内でも中国帰国者が最も多い、およそ350人が住む地域です。高齢化問題ととりくむ NPO法人シーズネットが、厚別区もみじ台団地ではじめての中国帰国者支援交流事業をくりひろげました。身近な地域で帰国者への理解をはかり、安心を支え孤立しないための拠点づくりへ一歩をふみだしました。



NPO 法人シーズネット 中国帰国者支援交流

おとなりさんを知って もみじ台

本センターの委託で NPO法人シーズネットは、7月28日、9月29日にもみじ台管理センターで帰国者理解と交流のイベントを開催しました。7月は、帰国者二世による餃子作り講習会、帰国者による太極拳表演など、たくさんのお店もあってにぎわいました。団地のみなさんにおとなりに住む帰国者を知ってもらおう絶好の機会になりました。

中国帰国者文化作品展やお茶サロン

9月は『ふれあい映画会 & お茶サロン』を開催、200人の帰国者、団地住民のみなさんが参加しました。映画上映会、中国帰国者文化作品展、太極拳、餃子作り体験、中国茶で楽しむサロン+歌声サロンと、もりだくさんなプログラム。参加したみなさんは、映画で泣いて、サロンでおしゃべりして、おいしい餃子を食べ、小学生から大人まで異文化交流を深める一日を楽しみました。

会場には、入口からはじまりいたるところに中国語の案内表示板があり、シーズネットのみ

地域で孤立しないための拠点づくり



【写真上】お母さんと小学生が餃子づくり。【写真下】中国茶を飲みおしゃべり、歌も楽しい交流サロン。

みなさんの細やかな心づかい、やさしさと熱意があふれていました。ひきつづき11月4日、お茶サロンと作品展が行われます。また、シーズネットでは、これからも札幌市内の各地域でも支援事業を行いたいと計画しています。

厚別コミュニティFM・中国語で安心できる

厚別のコミュニティFMラジオ局「FMドラマステイ」では帰国者が中国語の放送を聞くと安心できるだろうと「你好あつべつ!」(4面)を放送中、健康や介護の話もとりあげています。その放送を担当する介護予防センターもみじ台の担当者も、会場でイベントの運営に協力、地域に支援の広がりを作りだす会になりました。

ゆめ
しよくばたいけんじっしゅう
職場体験実習
夢があれば、がんばれ



9月3日から13日まで10日間の実習を行いました。受入事業所は有限会社齋藤産業です。同社は鉄工業で、齋藤貢生社長は中国帰国者に二世です。齋藤社長も、帰国時には言葉や仕事の問題で苦労した経験があり、Sさんにも「私も同じだった」と「言葉も大丈夫だよ」とやさしく語りかけます。Sさんはロシアでは溶接工、実習では鉄鋼製品の溶接、組み立て作業を行いました。

工場の空気に触れたSさんは、生き返ったようにのびのびと作業を行い、仕事ができる喜びを体いっぱい感じていました。工場の従業員はすべて日本人、職場のみなさんとも打ち解けて作業を進め

じりつ
自立へむけて第一歩

からふときこくしゃ
樺太帰国者Sさんが職場体験実習
しよくばたいけんじっしゅう
を行い、就職へ結びつきました。
はたら きこく
「働きたい」帰国したみなさんはだ
れもが望んでいる最大の願いです。し
のぞ さいだい ねが
かし、求職活動は言葉や習慣のち
きゆうしよくかつどう ことば しゅうかん
がいからむずかしく、何度面接しても
なんどめんせつ
断られると、日本社会に受け入れて
ことわ にほんしゃかい う い
もらえないのではないかと自信を失
じしん うしな
いがちです。実習は、日本の職場を
じっしゅう にほん しよくば
体験して自信をつけてもらおうと行
たいけん じしん おこな
ったものです。

ました。実習を終えてSさんは「仕事が楽しかった。早く仕事がしたい」意欲満々。社長も「仕事はできる。言葉は問題ない後からついてくる。あとはやる気」と激励。
ご せいしき さいよう き がつちゅうじゆん きんむ
その後、正式に採用が決まり10月中旬から勤務が始まり、自立へむけて第一歩を踏み出しました。
さいとうしゃちやう てつこうかいしゃ きぎやう にほん ぎじゆつ しんやう
齋藤社長は鉄工会社を起業「日本では技術、信用が大事、あとは努力」と、これまでがんばってきました。「夢があればがんばれる」と語ります。Sさんに深い理解をしめし応援してくれています。

日本サハリン協会

きぼう い ちから
希望であり生きる力 サハリン集団 一時帰国団

からふとざんりゆうほうじん いちじしゅうだんきこくだん むか かんげいかい おこな
樺太残留邦人の一時集団帰国団を迎えて歓迎会が行われ
ねん ねん ほうじんにほん どうほうこうりゅうきやうかい
れました。1990年からNPO法人日本サハリン同胞交流協会
て つつ いちじきこくじぎやう ざんりゆうほうじん
の手で続けられてきた一時帰国事業は、残留邦人のみなさん
には「希望であり生きる力」だといいます。せんごなが からふと
(サハリン)に置き去りにされた残留邦人にとって故郷に
つながるたいせつな架け橋です。

今年、同胞交流協会を引き継いだNPO法人日本サハリン協会(齋藤弘美会長)が、7月と9月に帰国団を受けいれました。7月の帰国団には30名、9月にはロシア大陸からの帰国者も含めて35名が帰国、なつかしい故郷の親族との交流を深めました。札幌での歓迎会が7月8日、9月11日に開かれました。帰国団は高齢の方も多く、永住帰国した帰国者のみなさん、支援者のみなさんに迎えられ、あたたかく包まれて故郷のぬくもりを感じているようでした。



でんとくぶんか ほこり
 伝統文化 誇り



9月1日、恒例行事となった『さっぽろ秧歌まつり』が、今年も札幌市の中心大通公園8丁目広場で開かれました。開幕するやいなや龍が舞い、大通公園は一気に秧歌一色に。続いて帰国者のみなさんがひとつに団結して秧歌舞がくりひろげられ笑顔、笑顔の踊りの輪が広場を回りました。龍舞は二世、三世が中心、伝統文化を誇らしげに力強く演じました。歌、太極拳、器楽演奏と民族色豊かな多彩な演目がくりひろげられ、なかで一世芦澤幸恵さんが『一本の鉛筆』に「戦争は嫌だ、愛を贈りたい」と帰国者の深い思いを込めて歌いました。この日参加したのはおよそ250名余りの帰国者と市民のみなさん、お互いの理解と交流の秧歌まつりは大きな成功となりました。

秧歌まつり
 龍が舞い、ひとつになつて

が さくらんぼ狩り リフレッシュの一日

人気のレク活動、今年の「さくらんぼ狩り」は、7月22日、札幌市南区八剣山の果樹園で行われました。参加したのは樺太、中国帰国者のみなさん。果樹園に着くとさっそくさくらんぼ狩り、「あま〜い」「おいしい」「こっちの木はすっぱい、こっちはあまい」と歓声がひびき、「食べ過ぎた」と、カゴいっぱいのおくらんぼを見せあい収穫体験を楽しみました。昼は、さくらんぼの木の下で輪になってお弁当。10年以上も同じ工場で働く仲間がグループで参加した二世たちは「私たち、がんばってきました」という自信に満ちた笑顔がうれしいものでした。帰りは、同じ南区の藻南公園で小休止。静かな公園を散策しおしゃべりを楽しみ、日ごろの異文化ストレスから解放されリフレッシュした一日になりました。



はたら 働く仲間、グループで参加
 笑顔がうれしい

じりつけんしゅう にほんしゃかい
 自立研修クラスでは、日本社会の理解のために、体験的に学ぶ見学会を行いました。

おたる水族館を見学
 故郷に帰ったみたい

7月31日、小樽市とおたる水族館の訪ねました。海辺の水族館では、たくさん海の生物を見て海獣のショーを楽しみました。かつて繁栄を誇った古い歴史の港町、今は観光客でにぎわう小樽運河を散策し小樽の街に触れました。ネベリスクから帰国したRさんは目の前に広がる小樽の海を見て「故郷に帰ったみたい」と心開かれる思いを語っていました。



開拓記念館を見学
 母さんを思い出す

北海道開拓記念館は北海道の歴史博物館です。開拓の村は、歴史的建造物を集めてます。9月18日の見学会では間近に昔の生活用品を見て古い時代の建物のなれば開拓の村を歩いて、地域の生活と歴史を学びました。一世帰国者のHさんは、昔の生活用品に、戦前の樺太時代の生活を思い出して「母さんがこれを使っていた」「母さんがいるみたい」と戦後の混乱の中、亡くなった母への想いを語っていました。

旭川おしゃべり交流会

共感！ 話はずみ楽し

回を重ねるごとに交流が深まっています。9月12日の会では、言葉のゲームで口慣らし、打ち解けてフリートークという構成で、「話が弾んだ」「悩み共感した」「楽しかった」とボランティアさんの感想。人格を認められるためにがんばってきたということを知ったと、帰国者の人生に思いを深めた声も聞かれました。帰国者みなさんも「話ができたと好評でした。地域での理解と支援の輪は、一步一步着実に広がっています。旭川市、旭川市社会福祉協議会の熱心な支えもあって、安心を支える地域支援へ向けて前進しています。

中国語ラジオ番組 你好あつべつ！

コミュニティFMラジオ局「FMドラマシティ」では、日本語と中国語の番組を放送しています。

FMドラマシティ 77.6MHz
毎月第1火曜日 15:00~16:00

中国と厚別のニュース、中国の曲、日本語が苦手でも参加できるイベント紹介、健康・介護・医療の話。ミニ日本語講座・ミニ中国語講座

インターネットで聞く時は、「サイマルラジオ」と検索し「RadioD FM doramacity」のアイコンをクリック。アイコンは「i・コミュラジ」

10月・11月・12月の行事

10月20日	DVD上映会『大地の子』
10月27-28日	洞爺湖温泉研修温泉旅行
11月18日	おしゃべり交流会
11月21日	旭川おしゃべり交流会
11月24日	DVD上映会『大地の子』
11月25日	中国残留邦人等支援に係る研修会
12月9日	第3回日本の家庭料理教室
12月23日	樺太帰国者交流パーティー

新職員紹介・相談員 安田真江さん

8月1日より新しく安田真江相談員が加わりました。ロシアからの帰国者のみなさんの相談、通訳を担当します。13年間中国帰国者定着センター（所沢）で生活相談員を勤めました。



「みなさん、こんにちは。みなさんが安心できるような役にたてればうれしいです。どうぞ、よろしく」

DVD上映会「大地の子」

涙して、「私と同じ」

DVD上映会は、今年度は『大地の子』を連続して上映して来ました。去る9月29日に死去した作家山崎豊子さんの『大地の子』は、中国残留孤児問題を多くの人に知らしめた作品です。『大地の子』を読んで、ドラマを見て、多くの人が中国帰国者問題を知り支援の輪が広がり、大きな力になった作品です。

上映会には毎回多くの方が参加。『残留孤児』と呼ばれるみなさんには共通の体験、心情が画面に現れ、涙して共感して自身の人生を重ねて苦難の足跡を辿るように、見入っていました。「私の人生と同じ」と感慨深く語り自分をたずね思い起こす映画会になりました。

編集後記

センターに集まる帰国者のみなさんとのふれあいの中で「聞く」ことの大切さを感じています。帰国者のみなさんがその心を「語る」こと、そのことが特別な人生を深く想い心いやし、再構成して身の上にかきた悲劇を少しずつ解きほぐしていくのではないかと。そして、帰国して良かったと心から思えるところへ至るのでしょうか。センターの大切な役割かと感じています。